

中学校 音楽科

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

下線（太直線）部は、中学校学習指導要領のみの記載

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、**音楽的な見方・考え方**※①を働かせ、**生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる**資質・能力の育成を目指す。

知識・技能の習得

曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解する※②とともに、**創意工夫を生かした音楽表現**をするために必要な技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

音楽表現を**創意工夫**することや、音楽の**よさや美しさ**を味わって聴くことができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、**音楽に対する感性を豊かにし**、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

※① 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や**社会、伝統や文化**と関連付けること。

※② 音楽を曲想(雰囲気、味わい)や、構造との関わりの中で理解する。**背景となる音楽文化との関わりでも理解する。**

16分音符で表現されている。
(構造との関わり)

この歌が力強く聴こえるのはどうしてだろうか？
(曲想との関わり)

この場面ではフォルティシモがよく使われている。
(構造との関わり)

この歌が作曲された当時の、戦争に反対するメッセージをこめた歌らしい。**ほかの歌はどうだろうか？**
(背景となる音楽文化との関わり)

内容構成の改善

音楽活動を伴わない個別の知識の習得にならないようにするよう、指導の工夫を行うことが大切。

領域、共通事項	
領域	「A 表現」 「歌唱」「器楽」「創作」
	「B 鑑賞」
	〔共通事項〕

現行学習指導要領
それぞれの領域、共通事項において、指導する内容を資質・能力の順序関係なく示す。

新学習指導要領		
ア「思考、判断、表現力等」	イ「知識」	ウ「技能」
ア「思考、判断、表現力等」	イ「知識」	
ア「思考、判断、表現力等」	イ「知識」	

構成は現行と変わらない。

学習内容との関係について、それぞれの領域、及び共通事項の中で育成をめざす、「思考、判断、表現力等」「知識」「技能」の三つの柱で整理。

※ ア、イ、ウの順番は重要度と関係ない。三つの資質・能力が**一体的**に育成されることをめざしている。

改善のポイント

例えば、「A 表現」「歌唱」指導において、生徒に思いや意図をもった歌唱表現をさせるために、新たな知識や技能を習得したり、これまでに習得した知識や技能を活用したりして試行錯誤しながら、「このように表現したい」という考えをもたせる。

☆ **言語活動の充実**（現行学習指導要領では「B 鑑賞」のみに位置づけられていた言語活動を「A 表現」でも扱うよう改善・充実）
音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、**音楽に対する評価**などを伝え合い共感するなど、**音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動**を適切に位置づけられるよう指導を工夫すること。

☆ **我が国や郷土の音楽に関する学習の充実**
生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、**愛着**をもつことができるよう工夫すること。
「**適宜、口唱歌**※を用いること」が新たに示された。 ※口唱歌…奏法や音の感じや質感などを言葉であらわしたもの

2 中学校音楽科における授業づくりのポイント

音楽科の特質に応じた言語活動の充実を図る

表現や鑑賞等の音楽活動を行った後、意見や感想を共有した上で、その内容について、再び音楽活動を行い確かめてみるなど、**音楽活動と言語活動を行き来しながら、学習をすすめる。**

(表現)

生徒が実際に歌い試したり、音を出して確かめたりするような活動と言葉でやりとりする活動を関連付けながら行う。

(鑑賞)

言葉で伝えたことを実際に音や音楽で確かめたり、対象となる音や音楽を何度も聴き直したりしながら行う。

「この部分をなめらかに演奏してみた。感想を聞かせて。」
「もう少しテンポを遅くしたらどうかな。」
「オーケストラで実際に演奏されている曲のテンポはどうなっているかCDで聴いて確かめてみよう。」
(鑑賞後)
「オーケストラの演奏を聴いてみたら、この部分は軽快さを感じた。私たちの演奏会ではテンポを速めてもよいのでは？」
「では、テンポを速めて演奏するから聴いてみて。」

音楽科における主体的・対話的で深い学びの実現 A 表現「歌唱」

音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生みだしたり、音楽を聴いてそのよさや美しさを見い出したりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。

《本授業でのめあて》

「さくらさくら」を箏曲に合った声で歌おう

【主体的な学びの視点例】

音や音楽と出会う場面において、音楽的な特徴に気付き、表したい音楽表現のよさや美しさなどを見いだす**見通しをもつ**。

【対話的な学びの視点例】

音楽的な特徴について共有し、感じ取ったことに共感しながら、**自分なりの感じ方をもつ、また自分の考えをもつ**。

【深い学びの視点例】

「**音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と試行錯誤を重ねながら活動をすすめる、よりよく課題解決する。**

- 箏曲に合った声で歌うための見通しがもてるよう、箏の弾き歌いの演奏とプロの歌手の発声による「さくらさくら」の演奏をそれぞれ鑑賞しましょう。
 - ・ 声の音色や音の響きについて比較しながら鑑賞する。
 - ・ 音色や響きの違いが分かるように繰り返し鑑賞する。 等
- 箏の弾き歌い、プロの歌手の発声による演奏、それぞれの感想、意見を交流しましょう。
 - プロの歌手は「ゆったり」、箏は「ハキハキ」聞こえる。
 - 箏は一つ一つの音に力強さを感じる。
 - いや、力強さというより、非常に優雅な感じ？

この後の対話的な学びの質を高めるために、
・ **鑑賞のポイントを明確に示し、繰り返し鑑賞させる**
・ 途中で別のグループの意見を聞く機会を設定する
・ 楽譜をみて気付いたことを話し合わせる
等といった工夫を行う。

- (感想を交流したことを基にして、)「さくらさくら」をピアノに合わせて歌いましょう。次に箏曲に合わせて歌いましょう。
- 様々な歌い方を試し、箏曲に合った歌い方を考えましょう。
 - 歌詞の最後の「いざや見に行かん」は、早く見に行きたいという気持ちが強く感じられる。力強く歌ったけど、どうかな。
 - 力強さはとても感じられた。でも早く見に行きたいというのだから、もっと速いテンポで歌ってみたらよいかも。